

(別紙様式)

令和 7 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		うわむらしゅうらく						
		上村集落						
集落等の状況	市町村	八幡平市						
	代表者 氏名・住所	氏 名	おとべ かつお 乙部 勝雄			住 所 八幡平市野駄 11-35-2		
	構 成 員 (1)		世帯数	構成人数	うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性	うち 45 歳未満
		地域全体	19 戸	19 人 (1 組織)	19 人	人	人	人
		うち 中山間地域等直接 支払制度の協 定集落	13 戸	13 人	13 人	人	人	人
	農用地の 作付け状況 (2)	計	そば	水稻	飼料用米	その他		
743a		325a	122a	136a	160a			
集落等の概況等	集落等の概況 (3)	上村集落は、八幡平市南東部に位置する旧松尾村野駄地域にあり、一級河川赤川と岩手山の間、国道 282 号線と東北自動車道の間に位置する集落である。 野駄地域は、山麓に挟まれた肥沃な盆地を形成し、豊富な水資源に恵まれていたため、良質な米を生産する米農家が多く、中沢、蟹沢、上村、山道、田中、森子、向村の 7 つの地区で構成されている。 中山間地域等直接支払交付金を受ける上村集落においては、中山間地域特有の小区画な田んぼで法面が長く管理が大変なこともあり、担い手への集約が進みにくいという問題点を抱えており、「保全管理だけでは農地を守ることは難しく、耕作しなければ農地を荒らしてしまう」との考えのもと、また、主食用米では作付けの時期や労力に限りがあることから、農繁期を分散させるため、中山間直接支払の対象農地では、代表等を中心に、転作作物であるそばの耕作に取り組んでいる。 そばの生産においては、経営所得安定対策に関する事務の効率化や作業の共同化を図るため、令和 5 年度に上村、田中、森子の 3 地区の農業者が「下野駄営農組合」を設立した。 高齢化と人口減少が進んでいる地域であるが、近年は、集落で耕作放棄地を借上げ、植栽活動としてひまわり畑の整備を行っており、担い手世代へ世代交代をするため、活動への参加を積極的に進めながら集落農業の維持に取り組んでいる。						
	集落等の組織 体制図 (4)	上村集落 代表 1 人 書記 1 人 監査役 2 人 会計 1 人 【世代間交流】 八幡平市立松尾保育所 特別養護老人ホームはらからの里 【構成員として参加】 自治会						

	将来の 目指す姿 (5)	今後とも、集落内を集落みんなで農地を守るように考え、各取組を継続していく。 将来にわたり農業生産活動等が可能となるような実施体制を構築するため、引き続き集落内での世代間交流を継続していく。また、下野駄宮農組合における農地集積を進めることと併せて、集落外の担い手とも連携できる仕組みを構築していく。
集落等の概況等	地域の活性化の取組内容 (6)	1 地域の活動のきっかけ 人口が少なく、高齢化も進んでいる地域であったが、耕作の継続により維持されてきた美しい景観や農用地の維持、土側溝のコンクリート水路への更新を目的として、中山間地域等直接支払交付金に平成 12 年から取り組み、また、多面的機能支払交付金に平成 24 年から取り組んできた。 中山間直払制度及び多面的機能支払制度を活用することにより、地域一体となって農地を維持していく機運が高まり、協定参加者の多くが高齢者であるが、活動を継続してきている。 2 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果 ① 遊休農地を活用した世代間交流 集落で耕作放棄地を借上げ、農村環境保全活動としてひまわり畑の整備を行っている。 13a の畑において約 4,000 本のひまわりを育て、咲いたひまわりを間引いて作った迷路に、近くの保育園児や特別養護老人ホームの利用者を招待している。 ひまわり畑で迷路を作る活動は平成 28 年から続けており、集落において毎年恒例のイベントとなっている。子供たちがひまわりを見たり迷路で遊んだりして楽しむ姿を、農業者や高齢者が温かく見守るなど、集落の世代間交流につながっている。また、こうした活動を市の広報や、新聞などで周知することで、集落の良さを内外へ広くアピールしているほか、農業者のやりがいとなっている。 ② 直営工事の実施 活動範囲内の水路について、土水路からコンクリート水路への更新作業と農道の碎石舗装を農業者による直営施工にて行っている。 コンクリート水路については、ほ場整備地区で撤去されたベンチフリュームや排水フリュームなど、再利用可能な資材を土地改良区から譲り受け、それを活用しながら更新作業を進めている。今後も、これらの資材を有効に活用しつつ、計画的に水路の更新を継続していく方針である。 農道の碎石舗装については、毎年予算に合わせて、軽微な補修を実施している。いつでも管理しやすい農道になるように、降雪前に碎石舗装を実施し、降雪による転圧で、翌年営農しやすい環境整備に努めている。 直営施工に取り組むことで、少ない予算でも、多くの工事を進めることが出来ること、集落の農地を集落で守るという連帯感が生まれることから、今後も継続して直営施工による工事を進めていく。 ③ 災害への対応 大雨等の異常気象時には、活動範囲内のパトロールを速やかに実施している。大雨によって水路や畦畔が崩れた際には、市や改良区に頼るだけではなく、直営にて復旧可能と判断したものについては、交付金を活用しながら直営で復旧作業を行っており、速やかな復旧につながっている。

集落等の概況等	地域の活性化の取組内容 (6)	④ 転作作物への取り組み 集落協定の構成員が中心となり、平成 24 年頃から、転作作物として小麦の栽培を開始した。小麦は秋播きで翌年 7 月の収穫となるため、水稻と作業時期がずれることを魅力に感じ、栽培し始めたが、冬越しのための秋と春の除草剤散布、病気予防のための薬剤散布による経費が掛かりすぎることや、収穫期の 7 月に梅雨を迎える当市の気候では、雨にあたることで穂に実が成っている状態で発芽してしまうという問題点があり、3 年程で作物の転換の機運が高まった。 集落での話し合いにて、日本そばの製麺会社である市内の北館製麺への販路確保が可能なこと、経費が掛からないということから、ソバの作付けをスタートした。ソバも雨に弱いという弱点はあるが、種の乾燥や播種等に集落共同で取り組み、刈り取り作業と出荷分の乾燥作業は市内の農事組合法人アグリサポートへ委託することで安定した生産を行っている。今年で 10 年程出荷を継続しており、他の地区のソバと合わせて製麺され、出荷されている。 転作作物を効率的に栽培するため、令和 5 年度に下野駄営農組合を設立した。今まで各農家が個別に行っていた販売契約や水田活用の直接支払交付金に関する事務作業が一元化され、作業効率の向上に留まらず多くのメリットがあった。さらに組合では下野駄地区に限らず、後継者不足や高齢化といった問題を抱える農家から農地集積を積極的に進めており、集落協定内の農地については、営農組合や担い手への集積率が令和 5 年度の 87%から令和 7 年度には 90%に上昇している。 ⑤ 周辺林地の除伐の取組 農用地の周辺林地について、近年、里でのクマの目撃が大変多くなってきており、農作物への被害のほか、人的被害も心配される中、令和 5 年 10 月に組織の構成員が作業小屋付近でクマと鉢合わせになり襲われる被害が発生するなど、誰がいつどこで同じような状況になってもおかしくない状態である。このような被害を未然に防止する取組として、農地と近い林地の下刈りや除伐を行っており、クマに限らずイノシシなどの野生動物が潜む場所が減少することにより、令和 6 年以降、農作物被害が減少し、人的被害も発生していない。地域全体が安心して暮らせるよう今後も取組を継続していく。 3 今後の課題と将来展望 現在は、維持が難しくなっている協定農用地は無いが、組織の構成員の高齢化が進んでいるため、若い担い手の世代に活動を移行していかなければならないと考えている。 集落の農地を守ることが、集落を守ることにつながるため、活動の周知を強化し、次世代の活動参加者を集めていく。 また、営農組合での農地集積を進めることと併せて、集落外の担い手とも連携できる仕組みを構築していく。
----------------	----------------------------	--

集落の活動写真 (7)



(ひまわり畑で遊ぶ子供達)



(農業者によるコンクリート水路への更新作業)



(農業者による農道への碎石舗装)



(集落のソバ畑)



上村集落の概要

令和7年度第2回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会（現地調査）

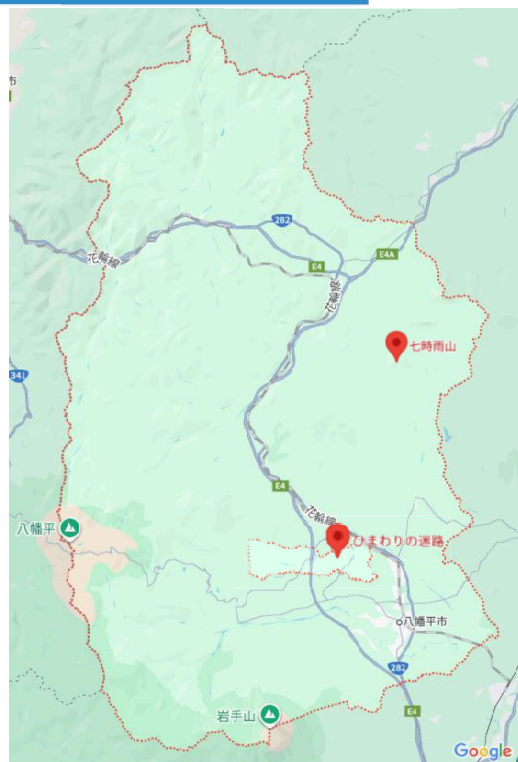
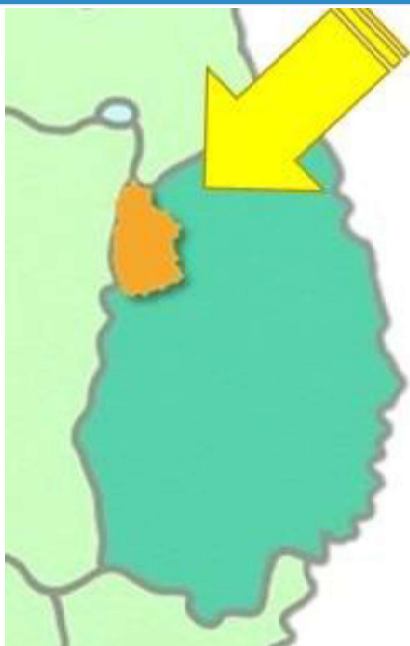
対象：八幡平市 上村集落

場所：八幡平市役所多目的ルーム1



八幡平市市制20周年

上村集落の位置



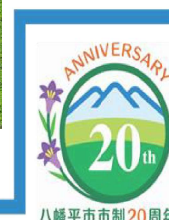
八幡平市市制20周年



ひまわり迷路作成の様子



今年度のひまわり迷路



今年度のひまわり迷路



今年度のひまわり迷路



今年度のひまわり迷路



今年度のひまわり迷路



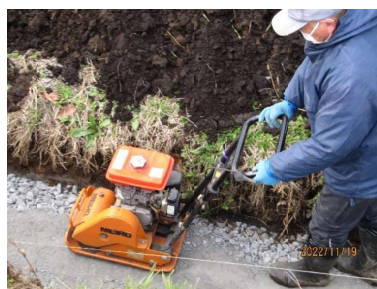
今年度のひまわり迷路



動画再生



コンクリート水路への更新の様子



農道の補修の様子



大雨災害への対応の様子



転作作物への取組



周辺林地等の除伐の取組 鳥獣害被害対策防止に向けて

